

令和7年度 中郷地区学校運営協議会 実施報告

(梅北小学校・安久小学校・中郷中学校)

1 学校の概要

| | | | | | |
|------|---|-------|-------|-----|----|
| 学校名 | 都城市立梅北小学校 | 校長名 | 田中 敏雄 | | |
| 学級数 | 9 | 児童生徒数 | 159 | 職員数 | 18 |
| 教育目標 | 「たくましい体、豊かな心、自ら考える力を備えた 実践力のある児童の育成」 | | | | |
| 学校名 | 都城市立安久小学校 | 校長名 | 伊藤 寿朗 | | |
| 学級数 | 15 | 児童生徒数 | 281 | 職員数 | 27 |
| 教育目標 | 「ふるさとを愛し、自ら学び、心豊かに、たくましく生きる児童の育成」 ～やる気・気づき・根気・絆をはぐくむ安久ならではの教育～ | | | | |
| 学校名 | 都城市立中郷中学校 | 校長名 | 濱川 千春 | | |
| 学級数 | 9 | 児童生徒数 | 215 | 職員数 | 24 |
| 教育目標 | 「夢の実現に向けて常に学び続ける、 心身ともに調和のとれた人間力あふれる生徒の育成」 | | | | |

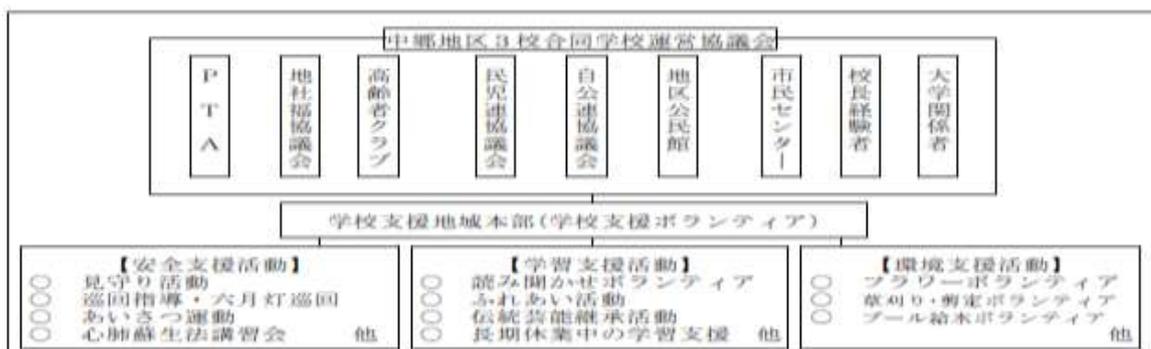
2 学校運営協議会に関わる組織

(1) 委員(計18名)・事務局(計9名)

| 学校運営協議会委員 | No | 所属名 | 氏名 | 備考 |
|-----------|-----------|--------------|--------|-----|
| | 1 | 後久工業代表取締役 | 後久 静丸 | 副会長 |
| | 2 | 元都城市議会議員 | 三角 光洋 | |
| | 3 | 中郷地区市民センター所長 | 中山 隆 | |
| | 4 | 中郷地区公民館長 | 園田 浩司 | |
| | 5 | 自治公民館連絡協議会会長 | 山内 正一 | |
| | 6 | 中郷中PTA会長 | 堀之内良一 | |
| | 7 | 前都城市立小学校長 | 川崎 文雄 | 会長 |
| | 8 | 南九州大学准教授 | 渡邊 光浩 | |
| | 9 | 中郷地区民生委員会会長 | 時任 豊 | |
| | 10 | 中郷地区民生委員会副会長 | 村田 利森 | |
| | 11 | 生活支援コーディネーター | 長友 京子 | |
| | 12 | 安久小PTA会長 | 藤田 雄也 | |
| | 13 | 梅北保育園長 | 青木 眞州男 | |
| | 14 | 大浦自治公民館長 | 川崎 道夫 | |
| | 15 | 麓自治公民館長 | 永田 勇作 | |
| | 16 | 中郷地区社福協会事務局 | 和田 和子 | |
| | 17 | 弘川民生児童委員 | 福元 喜代子 | |
| 18 | 梅北小PTA副会長 | 谷口 寿志 | | |

| 事務局 | 役職 | 氏名 |
|-----------|-----------|-------|
| | 梅北小学校校長 | 田中 敏雄 |
| | 梅北小学校教頭 | 外山 繁 |
| | 梅北小学校教務主任 | 西山 大地 |
| | 安久小学校校長 | 伊藤 寿朗 |
| | 安久小学校教頭 | 小牧 啓介 |
| | 安久小学校教務主任 | 山元 善貴 |
| | 中郷中学校校長 | 濱川 千春 |
| | 中郷中学校教頭 | 西村 清美 |
| 中郷中学校教務主任 | 三重野 修 | |

(2) 組織編制



3 活動計画

| 月 日 | 主な活動及び内容 |
|--------|---|
| 4月 | 学校運営協議会委員の選出 |
| 4月～3月 | 児童生徒の見守り活動 |
| 5月～3月 | 学校支援活動（平和教育講話、郷土料理作り等） |
| 6月～10月 | 伝統芸能継承活動（学校行事での披露）：各地区での継承活動、六月灯 |
| 6月13日 | 第1回中郷地区学校運営協議会：中郷中（委嘱状交付、年間計画・引継ぎ事項の確認、意見交換） |
| 7月 | 第2回学校運営協議会（各学校にて開催、授業参観、学校運営に関する協議、地区目標の具現化について協議、学校支援ボランティアについての現状と課題） |
| 9月25日 | 第3回中郷地区学校運営協議会（3校合同で開催。協議題「地域と共にある学校づくりを目指して」～学校が抱える課題の共有と私たちができる解決策とは何か～）中郷中 |
| 12月～1月 | 第4回学校運営協議会：各学校にて開催、授業参観、学校評価について |
| 2月17日 | 第5回中郷地区学校運営協議会：中郷中 |
| 3月 | 資料配付（各校の学校評価結果の報告、年間活動実施報告） |

4 今年度実施した「熟議」のテーマ（小中合同学校運営協議会の含む）

9月：「地域と共にある学校づくりを目指して」

～学校が抱える課題の共有と私たちにできる解決策とは何か～

5 学校運営協議会の意見を生かした特色ある取組

(1) 学校支援活動

本年度も学校支援ボランティアとして、多方面にわたり多大なご支援をいただいた。「学習支援」においては、農業体験や郷土料理作り、伝統芸能の継承活動など、児童生徒のキャリア教育に繋がる貴重な機会を提供していただいた。また「安全支援」としての見守り活動や、「環境支援」としての草刈り・行事設営など、教育環境の維持にも尽力いただいた。次年度の活動充実に向け、地域の方々の知見を生かした体験活動を見据えた協力体制の強化についてご提言を頂くなど、今後の支援体制の在り方についても大きな示唆を得ることができた。

(2) 教育課程の改善（カリキュラム・マネジメント）

「地域に誇りをもち、夢に向かって努力する中郷の子ども」の育成を目指し、学校運営協議会の意見を積極的にカリキュラムへ反映させた。具体的には、生活習慣の改善（ノーメディア等）や環境美化、新聞活用による読解力向上など、全校的な取組を推進した。小中合同のあいさつ運動では中学生が手本を示すなど、連携による好ましい成長の姿が確認できた。

(3) 地域貢献活動

地域文化の維持・振興のため、小学校では保存会のご協力のもと、各種祭りや学習発表会にて伝統芸能の披露を継続した。加えて、中学生が小学校のPTA奉仕作業や地域の祭りの準備・運営に加わるなど、世代を超えて地域の方々と手を取り合い、汗を流す活動を実践した。こうした活動を通じ、生徒たちは地域の一員として貢献する喜びを学ぶことができた。

6 学校運営協議会の成果と課題

○ 第3回協議会では、会長の深い見識と主導により、3校合同での「熟議」が実現した。明確なテーマ設定のもと、学校の現状を委員間で深く共有できたことは大きな成果である。これにより、小中連携による支援体制の構築に向け、地域全体で子供たちを支える意識がより一層醸成された。

● 良好な支援体制が整いつつある一方で、自治公民館への未加入世帯の増加など、地域コミュニティの希薄化が懸念される。地域全体で子供を育む基盤をいかに維持・強化していくかが今後の課題である。

7 次年度の方向性

○ 今年度の熟議を通して、「地域と家庭の連携の希薄化」「保護者対応の困難さ」「教職員の業務負担」という3つの課題が浮き彫りになった。今後は、これら共有された課題に対し、学校と地域が密に連携して取り組める解決策を深掘りし、具体的なアクションへと繋げていく必要がある。特に、地域住民の豊富な知見を生かした体験活動の充実や、支援体制のさらなる強化をすすめていく。